

令和
8年

日頃から、火災予防の習慣づけを！

11月9日(月)～11月15日(日)

秋の火災予防運動

・火災の背景には、火災の要因となる様々な火種（習慣）が存在するものです。
これまで大丈夫だったから、今後も火災が起これないという保証はありません。
日頃から、火災予防に対する習慣を身につけていただき、住宅における火災予防の徹底をよろしくお願いいたします。

火災を防ぐ日頃からできる習慣

①

火災警報器の点検



定期に作動点検し、
電池切れの場合は
本体を交換しましょう。
10年経てば交換を！

②

火のそばを離れない



火の使用時はその場を
離れない。火災の多くは、
目を離れたときに起こっ
ています。

③

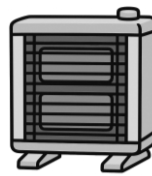
火を確実に消す



特にたばこやたき火は消
したつもりでも消えてい
なく火災に至る場合があ
ります。水につける等安
全な対策を取りましょう。

④

正しい使い方を使う



服を乾燥するのにストー
ブを使ったり、アルミホ
イルをレンジで温めたり、
本来の使用法で禁止さ
れている行為から火災は
発生しています。

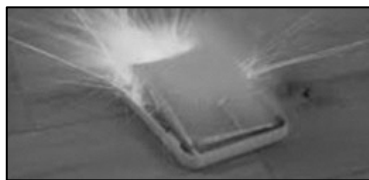
⑤

放火されない
環境づくり

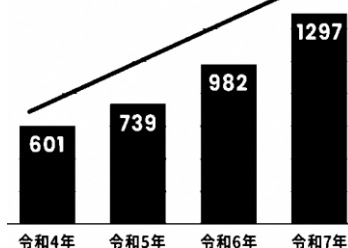


家の周りに燃えやすい物
を置かない、門灯などを
つけ明るくするなど、放火
されにくい環境づくりを
しましょう。

リチウムイオン電池関連の火災が増えています！



関連火災が急増中



近年、急増している火災がリチウムイオン電池関連の火災です。

小さくても高エネルギーであることから、様々な電化製品にも利用されていますが、衝撃に弱い特性があり、使い方を間違えると火災につながる危険性があります。

当消防組合管内でも関連する火災が複数件発生しており、火災を起こさないためにも、購入時、使用時、廃棄時は注意が必要です！

製品選択



[PSEマーク]



[リサイクルマーク]

使用管理方法

強い衝撃、圧力
高温になる場所
湿気が多い場所
NG

廃棄方法

自治体で決め
られた方法に
より廃棄



[詳細はこちら]

南丹市消防団・京都中部広域消防組合 園部消防署

お問い合わせ 園部消防署予防課予防係 TEL0771-62-0119

身近で起こった火災（人災）事例から対策を学ぶ

これからの季節は、特に暖房器具の取扱いに注意が必要です。

当消防組合管内でも暖房器具等からの火災は例年発生しています。対岸の火事ではなく、身近で起こり得る災害として、注意する必要があります。まずは実際に管内で発生している火災事例を知りましょう。

Case 1

ストーブ × ガソリン 誤給油

ガソリンと灯油を同じ形のポリ容器に入れて物置に置いており、誤ってガソリンを入れたタンクをストーブにセットしたため、炎上した。

Point

ガソリンは金属製の容器で保管する必要があります。ガソリンと灯油は容器が見分けられるよう別の容器とする等の対策をとりましょう。

もし…

こんな時、消火器があれば、直ちに消火できます。消火器は、離れた安全な場所から消火でき、高い消火能力を有しています。

初期消火に有効な消火器

消火器の使い方を確認！

京都市中部 消火器



適応火災のマーク

新規格



普通火災用



油火災用



電気火災用

消火器を購入する際はこのマークを確認しましょう。3つとも表記されていれば、住宅で起こる全ての火災に対応できます。サイズは重さ消火能力のバランスが取れた10型がおすすめです。

Case 2

ストーブ × 布団 接触

ストーブをつけて就寝した後、寝相が悪く布団が動き、ストーブに接したことにより布団が燃えた。

Point

寝る前に消しましょう。ストーブに接していなくても、輻射熱で燃えることもあります。可燃物とは距離をとり使用しましょう。距離が近く、木製椅子が燃えた事例もあります。

もし…

こんな時、防災製品を使用していれば、燃え広がりにません。寝具やカーテン等は、防災の製品が普及しています。できるだけ、防災の製品を選ぼうにしましょう。

火災の延焼拡大を防ぐ、防災製品



防災



非防災



防災製品の効果は一目瞭然です。防災製品の場合、火をあててもその部分が焦げるだけで、拡大しません。防災製品は、カーテンやじゅうたんの他に調理時のエプロンや寝具等でも数多く販売されています。

Case 3

電気ストーブ × 本 落下

出かけるとき電気ストーブの電源を切ったが、机の上に積み上げられた本等が崩れて落ち、衝撃によりスイッチが入り、本が燃えた。

Point

使わないときはコードを抜く。火災を予防する基本は整理・整頓です。火気の周りに燃える物を置かないようにしましょう。

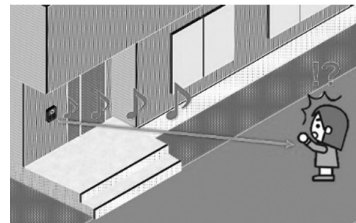
もし…

こんな時、住宅用火災警報器が設置されていれば、警報音を聞いた近隣の住民や通りがかりの人が気づき通報、消火することができます。実際に奏功事例なども数多く報告されています。

早期発見、住宅用火災警報器



近隣者・通行人が気づく「屋外警報装置」



警報器の種類には煙や熱を感知し警報音を屋内に発信するもの以外に、光で発信するもの、連動してインターホンから屋外にも発信するもの等、様々な種類の製品が販売されています。生活スタイルにあった製品を選択しましょう。

環境・行動を見直し、人為的原因による火災を防ぎましょう！